

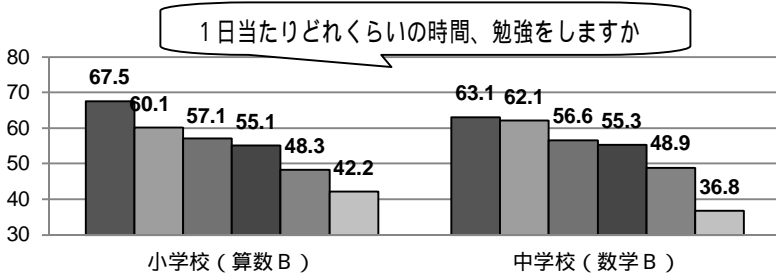
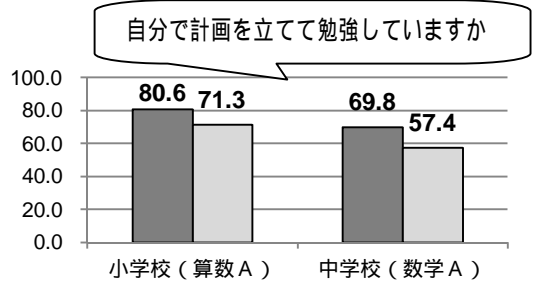
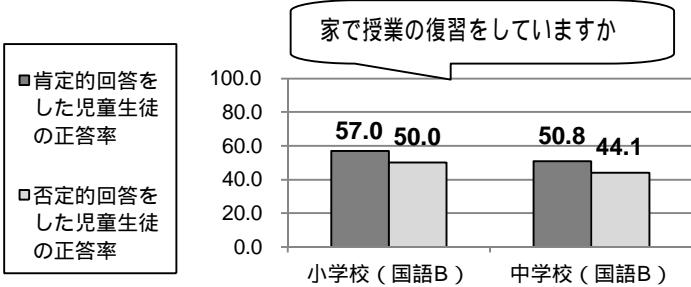
一家庭学習を計画的にしましょう

児 児童質問紙
 生 生徒質問紙
 学 学校質問紙

- 大阪市の結果から -

児 生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります



- 3時間以上
- 2時間以上 3時間より少ない
- 1時間以上 2時間より少ない
- 30分以上 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない



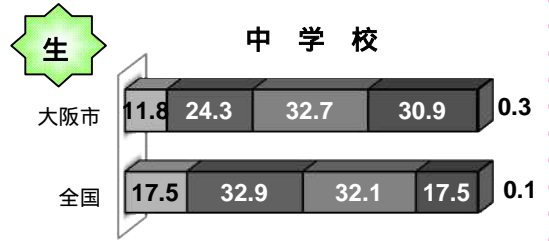
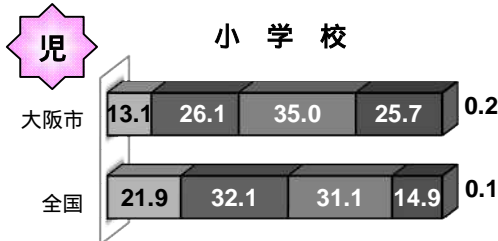
- 全国と比較して -



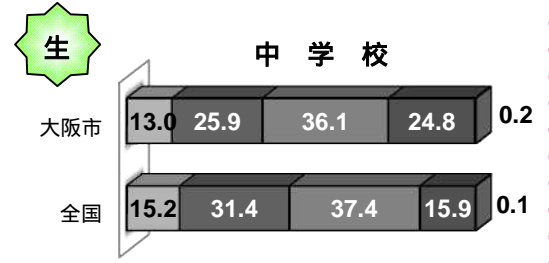
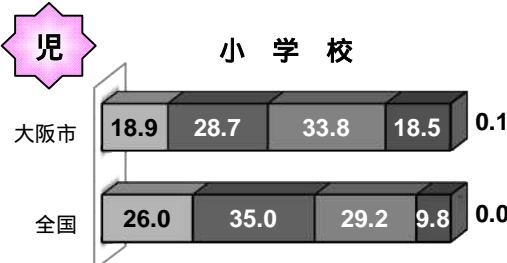
「授業の復習」「計画を立てて勉強」について、肯定的に回答している児童生徒の割合が低い傾向にあり、「1日の勉強時間」も短い状況です

- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない
- 他、無解答

復習している

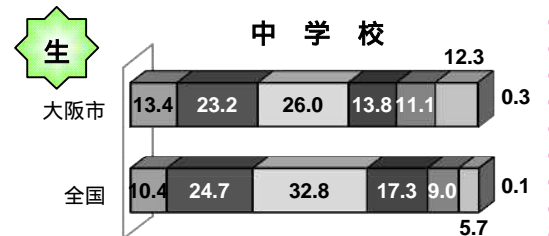
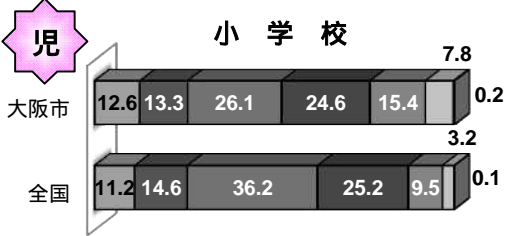


計画を立てて勉強している



1日の勉強時間

- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない
- 他、無解答



学校で

与えられた課題や宿題は、やり遂げるように指導します。
家庭学習の取り組み方について、指導していきます。
中学校では、各教科等の担当が共通理解を図りながら宿題の分量や出し方を工夫します。
懇談会等において、家庭学習（宿題）について保護者の方々と意見交流をします。



家庭で

宿題を確実に仕上げるように、見守りましょう。
内容や時間については、自分で計画を立てて取り組めるように話し合しましょう。また、うまく進まない時には、声かけをし、励ましましょう。
宿題以外にも、復習や読書等、自分で考えた課題に取り組めるように、声かけをしましょう。



効果があった取組例

家庭学習の取り組み方を工夫しています。

- ・漢字では・・・筆順・熟語・パズルやクイズ等いろいろなパターンで取り組ませています。
- ・音読では・・・毎日のめあてを決め、目的をもって読ませています。

「めざせ 漢字博士!」「計算名人!」

自分の到達度に合わせた学習プリントに取り組ませ、家庭学習への意欲を高めています。教室の黒板横のホワイトボードに各教科の宿題内容を記入し、教員・生徒がともに共有できるようにしています。また、同じ分量の宿題を出すよう、教科担当が互いに調整しています。

毎週火曜日の放課後に、学校独自で宿題等を行う補充学習の時間を設定しています。その結果、宿題を忘れてくる児童の数が減り、学習への意欲が高まってきています。



大阪市の取組

「学習教材データ配信」(P.37)
「放課後ステップアップ事業」(P.37)
「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)

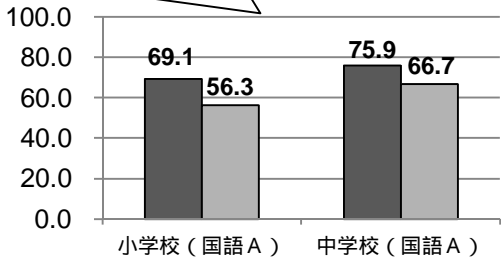
自尊心：self-esteem の訳語で「やればできる」
 という自信や自分を大切に思う気持ちのこと
 規範意識：規則を守ろうとする意識

児 児童質問紙 **生** 生徒質問紙 **学** 学校質問紙

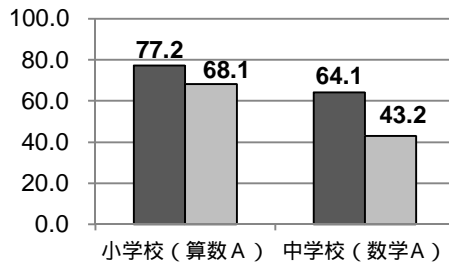
- 大阪市の結果から -

児 生 次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります

ものごとを最後までやり遂げて、
 うれしかったことがありますか



学校のきまり・規則を守っていますか



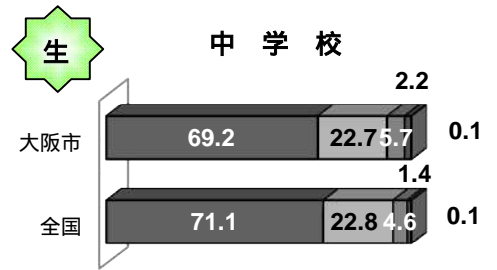
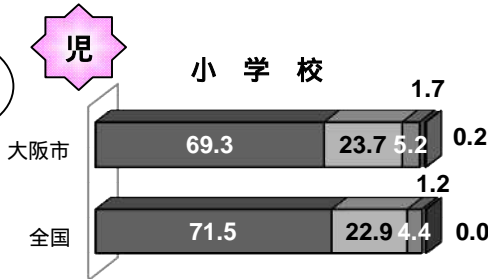
■ 肯定的回答をした児童生徒の正答率
 □ 否定的回答をした児童生徒の正答率

- 全国と比較して -

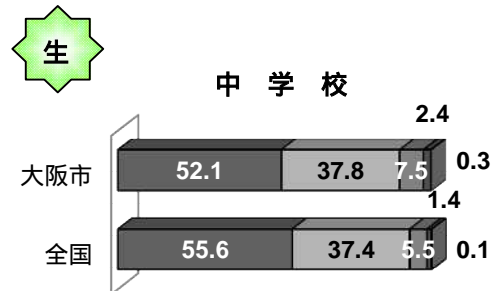
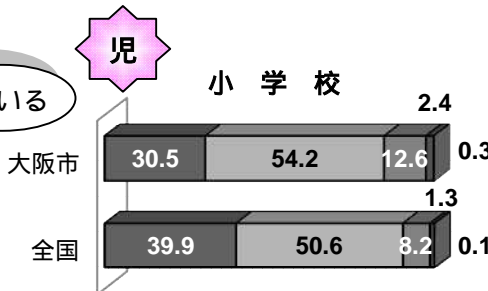
- ・「ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じている」について肯定的な回答をしている児童生徒は全国に比べて若干低いものの、9割を超えています
- ・「学校のきまり・規則を守っている」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は低い傾向にあります

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない
 ■ 他・無回答

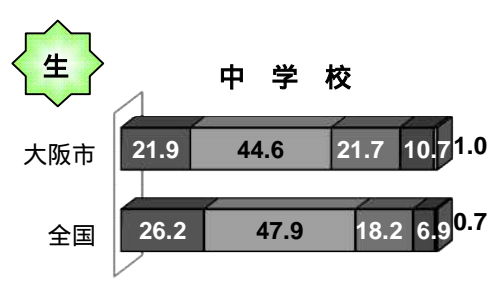
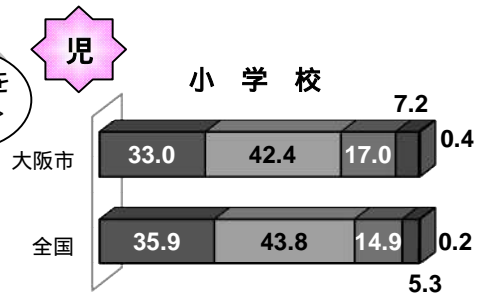
ものごとを最後までやり遂げて、
 うれしかったことがある



学校のきまり・規則を守っている



先生は、あなたのよいところを
 認めてくれている <新規項目>



- 全国と比較して -

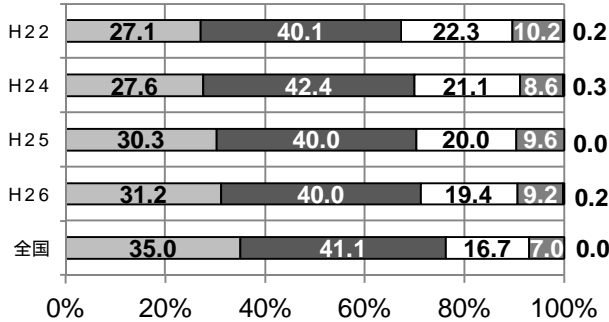
肯定的に回答している児童生徒の割合は依然低い傾向にあります

児 生

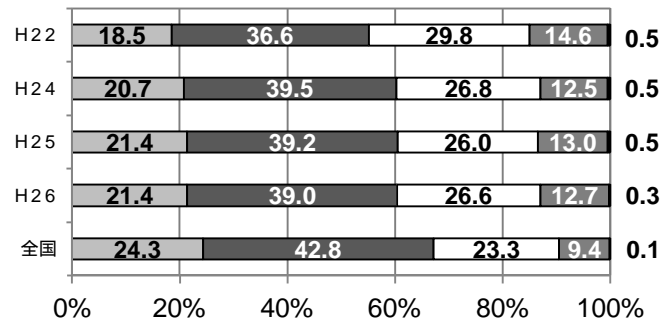
自分には、よいところがあると思う

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 他，無回答

小 学 校



中 学 校



学校で

学びの基盤となる学習規律を身につけさせます。
 子どものがんばりを認め、一人一人のよさを伸ばします。
 よりよい人間関係を築くため、規範意識を高めます。
 子どもとの対話に心がけ、信頼関係を深めます。

家庭で

子どもの取組を粘り強く見守り、励ましましょう。
 子どもが自信を持っていることを認め、さらに伸びていくことができるよう、温かい言葉をかけましょう。
 夕食や家事の手伝いを通して、会話を楽しみ、ほめてあげましょう。
 大人が自分自身の経験を語ったり、子どもの夢や希望に耳を傾けたりして、積極的に子どもと対話しましょう。
 家庭でのルールを子どもと話し合って決めましょう。

効果があった取組例

学校生活や学習活動のルールをスローガンに掲げ、生徒の学習への意識向上をめざして、学校全体で取り組んでいます。
 生徒会が中心となり、集会や行事を生徒自身で運営し、地域の清掃活動や校区小学校の児童会との交流を行っています。
 地域の店舗の協力を得て、児童が新しく販売する商品のためのリサーチ、企画・開発・その実践報告を行う等、キャリア教育を充実しています。

大阪市の取組

- 「放課後ステップアップ事業」(P . 37)
- 「学校元気アップ地域本部事業」(P . 38)
- 「幼保小の連携」(P . 40)
- 「学校キャラバン隊」(P . 42)

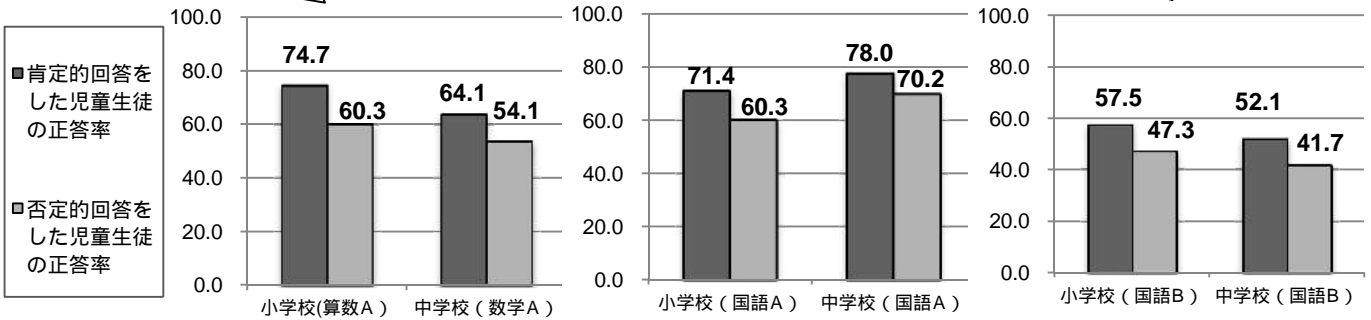
- 大阪市の結果から -

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります

家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか

家の人と学校の出来事について話をしますか

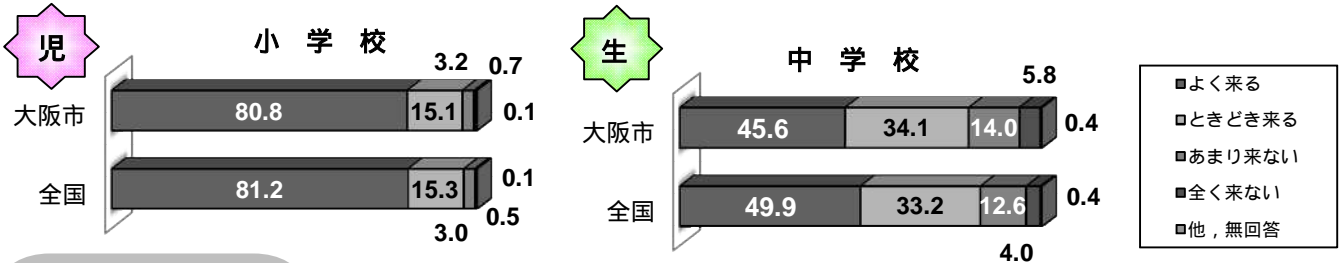
地域や社会で起こっている出来事に興味がありますか



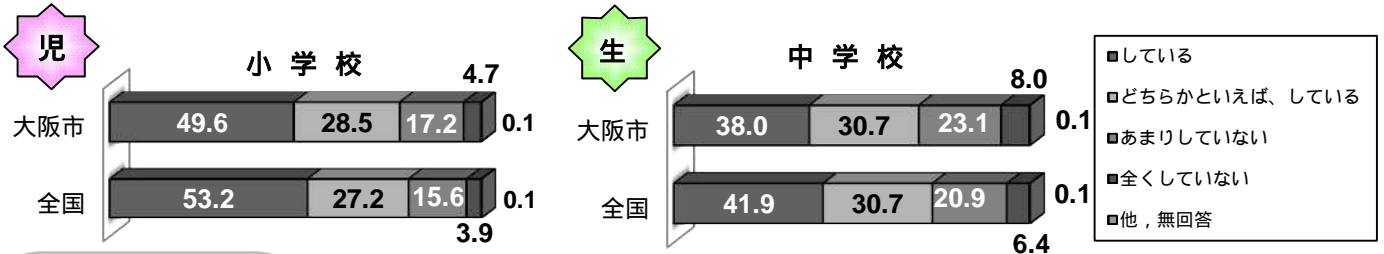
- 全国と比較して -

「家の人の学校行事への参加」「学校の出来事の会話」「地域や社会への関心」について、肯定的に回答している児童生徒の割合が低い傾向にあります

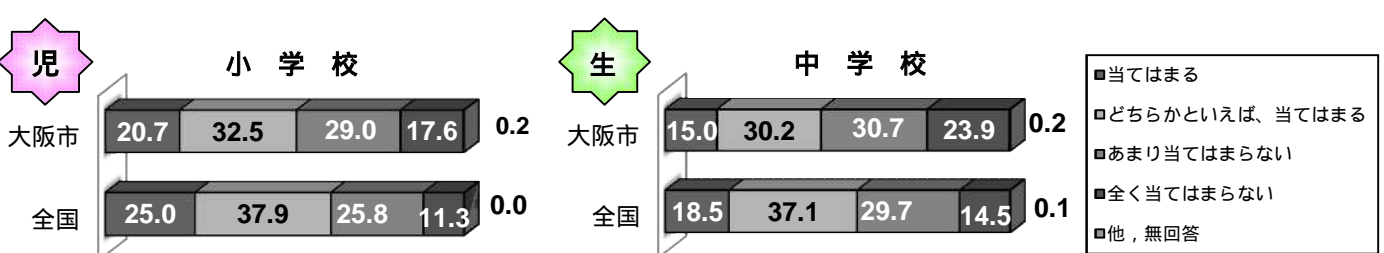
家の人の学校行事への参加



学校の出来事の会話

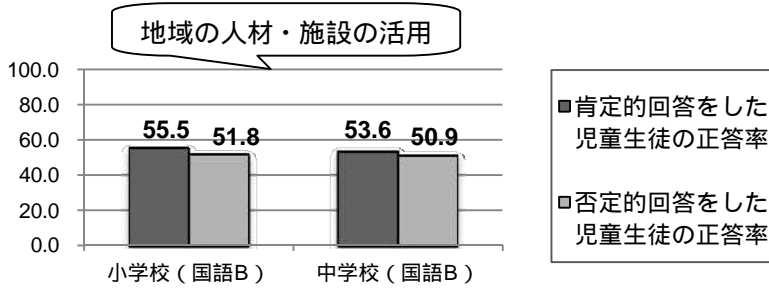


地域や社会への関心



学

全国のデータでも、「地域の人材・施設の活用」について肯定的に回答している学校の方が、教科の正答率が高い傾向にあるという結果が出ています



学校で

学校教育活動の中で、地域との連携を図る取組を進めます。

・昔遊び、野菜・米作り、昔のくらし、地域清掃、職場体験、福祉ボランティア、安全マップづくり等「子どもの生きる力をはぐくむ家庭のちから」等のテーマで、家庭での過ごし方について懇談会等で話題にし、保護者の方々と共に考えます。

地域での行事を紹介したり、一緒に参加したりします。

学力向上、体力向上、健全育成等を柱に、就学前教育、小中一貫した教育の充実に取り組みます。

家庭で

できるだけ家族と一緒に過ごす時間を作りましょう。

子どもの話に耳を傾けましょう。学校でのがんばりをほめましょう。

家庭や地域でのあいさつを大切にしましょう。

あいさつは、コミュニケーションの第一歩です。

ニュースや地域の出来事なども話題にして、地域・社会に関する興味・関心を育てましょう。

地域の行事に積極的に参加しましょう。

・お祭り、清掃活動、もちつき大会等

認める・ほめる・
感謝する・喜ぶ



効果があつた取組例

学校・家庭・地域が協力して、地域学習資料「わたしたちの町」を作成し、教育活動の中で活用しています。また、スクールキャラクターが、ホームページや学校のいろいろな場面で登場し、子どもたちや地域の方々から親しまれています。

キャリア教育として職場体験や職業講話を行い、望ましい勤労観・職業観を育てています。

学校元気アップの取組の中で、夏休みや放課後に、空き教室や学校図書館等の学習スペースを確保し、学習意欲の向上につなげています。

学校のホームページを各学年で担当し、子どもたちの様子や会話の糸口となるメッセージを配信していくことで、家庭や地域とのつながりを深めています。

毎日10名以上の地域のボランティアが来校し、給食時や放課後の自主学習会の手伝い、校内を巡回しての生徒への声かけ等を行っています。

大阪市の取組

「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)「小中一貫した教育」(P.39)

「幼保小の連携」(P.40)「学校図書館活性化事業」(P.40)

「学校キャラバン隊」(P.42)

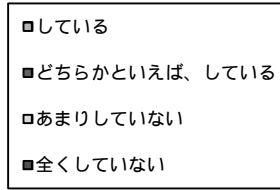
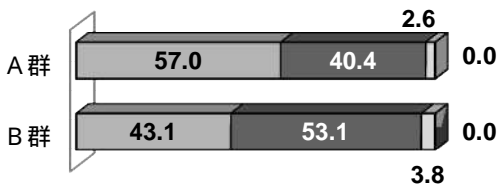
- 国の調査結果から -

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか<新規項目>

全国の学校を対象に、全ての教科で平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）と5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）を比較すると、A群の方が、「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的によく取り組んでいる」と回答している割合が高いです

学

小学校



学

中学校



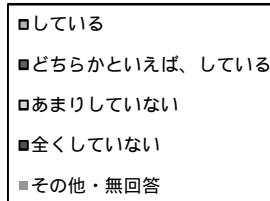
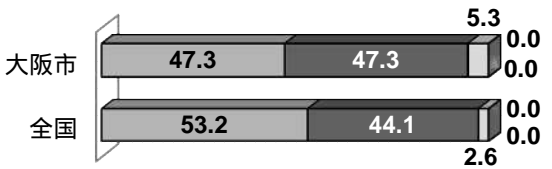
- 大阪市の結果から -

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか<新規項目>

肯定的な回答の割合は全国と比べてあまり差はありませんが、「組織的に取り組んでいる」と回答している割合は、小学校・中学校ともに、全国より低い傾向にあります

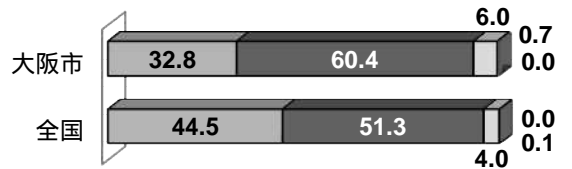
学

小学校



学

中学校



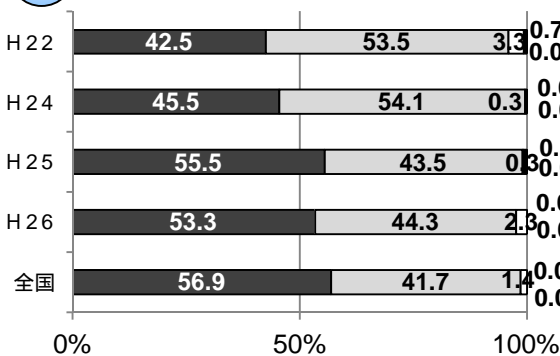
- 大阪市の結果から -

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっている

「取り組んでいる」と回答した学校の割合は、平成25年度までは概ね増加傾向にありましたが、平成26年度は小・中学校ともに低くなっています

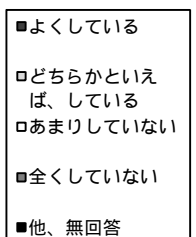
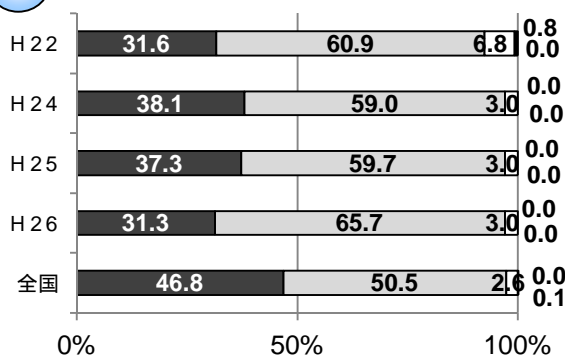
学

小学校



学

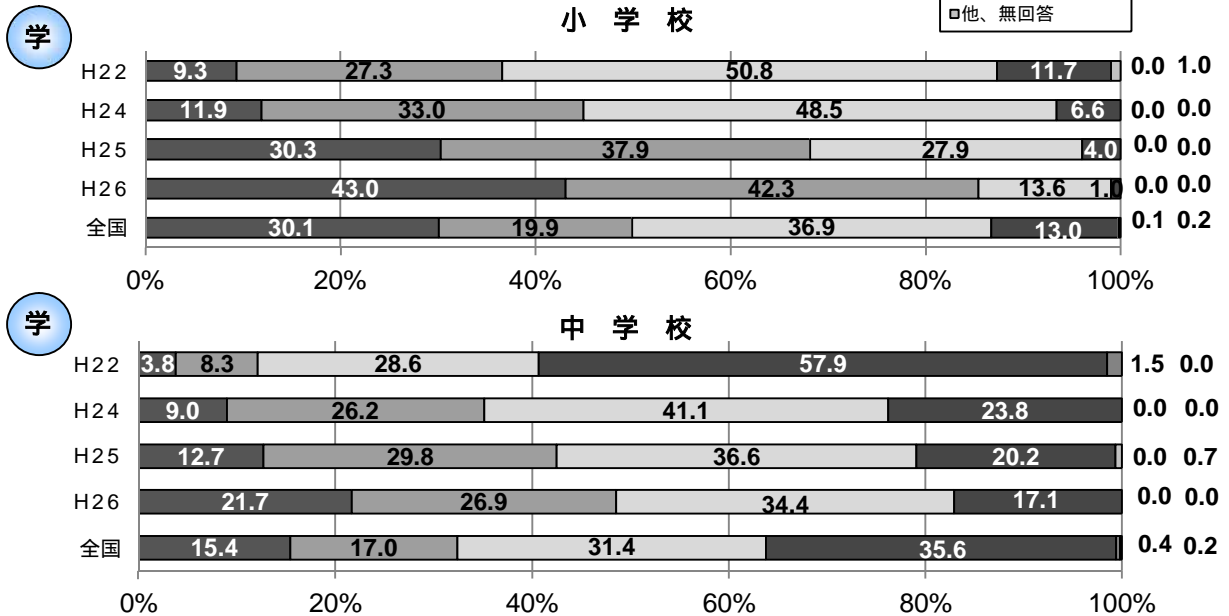
中学校



「授業研究を伴う校内研修実施回数」は、全国を上回っています

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

- 年間13回以上
- 年間9回から12回
- 年間5回から8回
- 年間1回から4回
- 全くしていない
- 他、無回答



学校で

学校の教育目標の達成をめざし、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組みます。

PDCAサイクルに基づいた学校改善を進め、学力向上に向けた具体的な取組を進めていきます。



PDCAサイクルに基づく「学力向上検証改善サイクル」

「全国学力・学習状況調査」等の結果分析を基に、これまでの各学校の取組の成果と課題を明らかにしたうえで、様々な教育活動を見直し、学力向上に向けた取組を進めていきます。

効果があった取組例

校内の研究部やメンターを中心に、学力向上、授業力向上に向けた校内研修を積極的に行っています。

メンター：より経験を積んだ教員

若手教員を中心とした自発的な研究グループが、教材についての指導方法や新しいアイデアを出したことで、授業改善への意識が学校全体に広がり、より校内研究が活性化しています。

学校長のリーダーシップのもと、学校独自の「授業力向上アドバイスシート」を作成し、授業研究会の際に全員で活用しながら、若手育成に取り組んでいます。

指導主事や教育センターの教育指導員等による指導助言に加え、大学教授や外部講師の積極的な活用を行い、校内研修の充実を図っています。

大阪市の取組

「学び続ける教員サポート事業」(P.42)